



皓齒なし

仲田 寿男

「明眸皓齒」を求めて、芸能局では去年から、タレント・スカウト活動を行なっている。その新タレントは「虹の設計」「事件記者」などのテレビ番組で今活躍している。

仕事として、新感覚の「明眸皓齒」を探すのは大変だろう。由来「いやらしき中年男」は、常日頃「明眸」を追う習性があり、願望がある。スカウトの苦労を知るが故に、ご苦労と思う反面、スカウトの副部長連中をうらやましくもある。しかし親の因果がむくいて「皓齒」どころか歯の痛みに時々悩まされるわたしと

しては「歯」となるといけない。幼き頃歯医者をも愚とののしって優しい母を困らせた思い出もある。

先日「歯を抜くのはおいやですか」と老先生がおっしゃる。この年になっても一本の歯で逃げまわることがばれた。数日中に抜かれるらしい。この歯があばれたのは、今を去る六年前、県とNHK共催の「球磨盆地を行く文化キャラバン」最終日である。毎年、僻地に文化をと県下各地を車をつらねてめぐっていた。

わたしは主任プロデューサーとして、録音に、演出に、催物の進行にとうごきまわり、七時起床、深夜二時就寝という劇務の五日間も、五木村頭地の成功でめでたく暮。

その最終日に歯痛がはじまった。打上げの酒のめず、ぬれタオルとともに横になった。その時の土地感が去年の水害取材に役立ったが、歯の方はここ数日でわが体を去ってゆく。

× × ×

今は昔。それは仙台飛行学校の尉官学生の時である。半年の教育期間中、一度も外出は許されなかった。明眸では決してない彼女は月一回位、東京から面会に来てくれたが、兵舎の面会所は久々の対面には誠に不都合である。是非遠い仙台の街を歩いて見たいと思いついた。そして人もうらやむ仙台市内の逢引きが成功した。学校医務室に歯科はなく患者は營外治療で街へ行くのを知った。

かくて、痛くもない虫歯をだしにし堂々と衛門を出てバス乗場に早足。作戦は功を奏して彼女と久しかった明るい街を歩きまわった。

近郊に居て仙台を知らず、前線へ出動した同僚を思うと、いささか歯の痛む思いでもあった。恩歯の奥歯も一昨年抜いてしまった。あの時の犠牲である。その時の彼女は今が妻として虫歯のわが子をなだめながら医師の門をたたいていて。親の因果か。

(熊本中央放送局 放送副部長)



お茶談義

落合 千年

酒は吉凶両面に広く使用されているが、茶は朝、昼、晩常時愛用されているものの、祝の場合にはいくらか遠ざけ、殊に関東辺りでは婚礼の日には茶を避け、昆布湯を出すのが普通ときく。しか

らば茶は果して科学的に見て悪いものであるか、どうかを少し探って見たい。

お茶を祝に使わない理由

普通言葉の中に「チャ化する」「チャにする」「チャを入れる」或は「チャ／＼ホーチャ」又は、アチャコ先生の十八番である「無茶苦茶でござりまするワイナー」等と滑稽諧謔にオドケル意味や、人を弄び面白可笑しく一寸小馬鹿にした、あまり香しくない意味に「チャ」を用いているが、その言葉をよく考えて見ると、さほどまで深い意味はないようである。

又話し筋を混ぜ返す(話を濁す)ようなどきに、冗談的によく使われる「チャを濁す」という言葉があるが、これは茶を淹れる時、急須に湯を注いでから急須を振って茶碗に注ぐ人をよく見かけるが、これが本当に茶を濁すことであり、出た水色も濁るし風味も悪くなるから急須に湯を注いでから、茶碗に注ぐまでは急須を動かさぬことが大切である。

人生三大祝である婚礼に

茶を用うる理由

支那の「続茶経」に次のようなことが書いてある。

茶嘉木也 一植不再移

故婚禮用茶從一此義也

凡そ茶を植えるには必ず種子を下す。移植すれば復び生ぜず故に妻を娶るとき茶を以て礼儀となす。即ち、茶は一度播種(結婚)すれば再び移植(再婚)しても枯

死するから、女は一度結婚すれば再婚はいたしませぬ。茶の木のごようございませぬという意味から来たものと思われる。

お茶を飲むと長生きする

これは東西禅師の著した喫茶養生記の中に次のようなことが書いてある。茶者養生之仙薬也 延齡之妙術也 山谷生之其地神靈也人倫採之其人長命也

即ち、茶は長生き養生の仙薬であって、山や谷に茶の自生しているような土地は神の宿るところで、人々がその茶を摘んで飲むと、長生きをするといわれ、婚礼式場に、老松に姥翁を飾る代りに「あなた百までわしや九十九までともに白髪のはえるまで」添い遂げるようにと、結納や三々九度の盃事にまで茶を使用するのである。

茶には家庭円満の相がある

茶を飲んで喧嘩口論したり、茶に酔い過ぎて「ヤマイモ」を掘ったり、夫婦喧嘩をしたり、橋より落ちて怪我をしたり、刃傷沙汰に及んだという事は未だ嘗て聞いたことはない。支那の晋の社育(西歴一三二一年)の舞賦に「茶は神調へ門を和す」と記されている。又茶は心臓薬といわれ喫茶養生記にも次のようなことが記されている。

「五臓の中心臓を主と為す呼 心臓を建立する方喫茶之妙術也」

その心臓弱ければ則ち五臓皆病を生



(熊本県茶業試験場長)

ず。即ち心臓は、全身の根本をなしているから心臓を強くする(俗にいうトーチカ心臓にする意味ではない)ことはやがて全身を強くすることで無病長命であるとともに「身体髪膚之父母に受く」敢て毀傷せざるは孝の初めなりと教経にもいっている。これらを考えて見ると、一杯の茶は父母の身心を和らげて孝養となり、共に健康は夫婦和合の基となる。又、応接の一碗の茶は兄妹の情を深め、朋友は相信するようになり、茶を愛用する家庭人に長寿者多く、病もまた少ないと聞く。茶が無病息災であり、一家安泰の守り神として婚礼に用うるも宜なるかなと思われ。茶は子孫繁栄の兆があるといわれていて、殊に男の子が欲しければ茶を飲めとあり、真疑のほどはわかぬが、今や産児制限や受胎調節の叫ばれる秋ではあるが、昔から諺にも「万の倉より子が宝」といって終戦後の今日といえども子孫より宝はあるまい。

老人会私見

蒲池 正紀

このごろ、人間の寿命がのびたので、元気な老人が多くなった。そして老人会というのも盛んになっているようである。いろいろな意味でそういう会合が老人たちの慰安や激励になっているようである。結構だと思う。

など書くと、夫子自身はいかにも若く見えるが、実は私にもやがて還暦がやってくるのだから人ごとではない。まあ、よく六十年も生きのびて来たとも思うし、又心の底では、もう六十になるのかな、といささか悲観するものがないでもない。

自分ではいつまでも若い気であるのだし、もともと精神年齢が少し足りない人間でもある上、若い学生相手の職業なので、つい自分の実際以上に若く思いこみがちでもある。それがこの節、スタミナがなくなると疲れやすいし、髭の剃り後が半日もすると白く光ってくるので、やっぱり年だと思いついた。そう思いつくとどうもいけない。

先日、東京から昔の中学の同級生がやって来たので集ると、見知らぬ足の悪い爺さんがいる。友人の同伴の縁者かと思つてかしまつて挨拶をしたら、彼も同級生であった。するとオレも彼とあまり変らない風貌になっているんだな、とい

う気がして、少し落胆をした。だから近く盛大な同級生会をやろう、などというその日の提案も私は黙って聞いていたのだ。小学や中学の同級生はなほつかしいが、中にへんに老けこんでまったく爺さんになっているのがある。すると自分の顔はめつたに見えないものだから安心して見つけたのが、仲間の老いぼけた姿を見せつけられて、自分の年をいやと言うほど思い知らされる。これはどうも残酷である。

だから、老人会などというのは、考え方は老人の自他確認であって、精神衛生上どうも甚だ結構だとは私に見えぬ気がする。老人にならぬ秘訣とは自ら爺臭く思わぬことだし、又爺臭い風采をしないことだと思ふ。

どっこいしょと言ひて乗りくる女達の大方が同じわれの齡と

という歌を先年詠んだが、宇野千代ではないが、女性はいつも適齡と思うがよいし、男性は大いに色気をもり立ててゆくことが必要であろう。老人会でもまさかストリップは見せないでも、甘い恋愛映画なども上映して、あまり爺さん、婆さん意識を昂揚しないようにしたいものである。

(熊本商大教授)